

主張

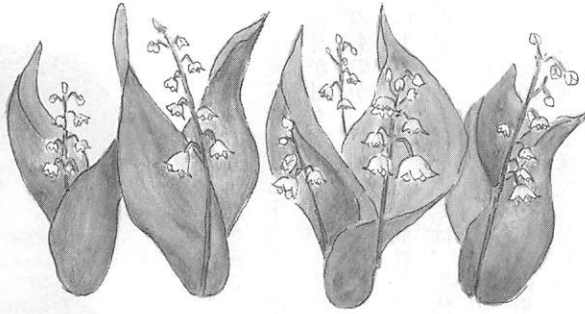
ここに地果て 海始まる

中村善弘

一四年も前の話。マドリッド日本人学校へ教頭として赴任し、三年目を迎えた夏季休業中の八月初旬、妻と中学一年生の息子を車に乗せ、ユーラシア大陸の西の果てポルトガルのロカ岬を訪れたときの回想です。

アジアから延々と続いてきた大地が大西洋に沈み込む絶壁の上に CABO DA ROCA
「AQUI... ONDE A TERRA SE ACABA E O MAR COMEÇA... (CAMÕES)」の
詩碑が立っています。「ここに地果て 海始まる」と日本語に訳されます。

この詩碑の向こうには大西洋の大海原が広がり、中学生の頃に社会科で学習した大航海時代のバスコ・ダ・ガマやコロンブスなどの名前が浮かんできました。同時に二年前（当時の二〇〇一年九月十一日、この海の向こうで世界をリードするアメリカ合衆国のニューヨークなどで同時多発テロが発生し、世界を震撼させていることにハッと我に返ったことを今も記憶しています。スペインも当時はイラクへ軍を派遣し、マドリッド市街のアメリカ大使館前の道路に砲を空に向けた戦車が常駐し、日本大使館からも危険地域が指定され、その周辺には近づくことのないよう指示が出ていました。そして、帰国を間近にひかえ



た二〇〇四年三月十一日の朝、マドリッド市内の中心駅周辺の通勤列車爆破テロ事件で二、〇〇〇人以上の死傷者ができました。スペイン国全体が緊張に包まれました。私たち家族三人は、覚悟をもって帰国しなければならぬことを話し合いました。

グローバル化、高度情報化の加速度的進展など世界全体がこれまで以上に急速に変化し続け、「post-truth」という言葉さえ聞こえる予測困難な時代です。こうした中においても「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学教育」を研究主題に掲げる我々中学校校長会は、立ち止まることなく新たな展望をもって教育活動を推進し子供たちを育て続けなければなりません。

今、新たな学習指導要領の告示において、学力の三要素のバランスある生徒の育成を重視した教育活動が強く求められています。私は知識は多いほど良い、より多く蓄え続けなければならぬと考えるようになりました。それは、その蓄えた知識を知恵にまで発酵させなければ「生きる力」へつながらないと信じているからです。

かつて、地の果てに立ち海を眺めながら様々な思いを巡らせたロカ岬は、今も海が始まる場所です。今、まさに新たな教育「何が身に付き、できるようになるか」が始まる所としていきます。

(全日中副会長・前和歌山市立貴志中学校校長)